



**Data**

監督・脚本：魏徳聖(ウェイ・ダー  
ション)

出演：林忠諭(リン・ジョンユー)  
／莊鵬瑛(ジョン・ジェン  
ン)／舒米恩(スミン)／陳  
米非(チェン・ミツフィー)  
／林慶台(リン・チンタイ)  
／趙詠華(シンディ・チャオ)  
／李千娜(リー・チエンナ)  
／張榕容(チャン・ロンロン)  
／鄒晴達(アンダーソン・チ  
ェン)／孫睿(スン・ルイ)

■ショートコメント■

◆魏徳聖(ウェイ・ダーション)監督の『海角七号/君を想う、国境の南』(08年)、『シネマルーム34号』405頁参照)も『セデック・バレ』もすばらしい映画だった。そのウェイ・ダーション監督の6年ぶりの最新作と聞けば、そりゃ必見!しかも、それが近時ハリウッドでも大流行のミュージカル映画と聞けば、なおさら必見!しかし・・・。

◆バレンタインデーは中国語で情人節(チン・レン・ジエ)。ちなみに、「情人節」と「情人結」は意味は違うが、発音は同じ。そして、中国映画『情人結(初恋の思い出)』(05年)はすごくいい映画だった(『シネマルーム34』209頁参照)。

また、2010年にはその字幕を担当した水野衛子氏を講師として、NHKラジオ講座の『毎日中国語』のテキストとしてその映画が使われていた。しかして、台湾の若者たちのバレンタインデーの人気は?

本作をみれば、台北=情人節=花とチョコレート=愛の告白という愛のオンパレードの流れにビックリ!さらに、本作のために作られたという17曲の完全オリジナル曲はラブソングばかりだ。それなりに楽しいポップス調のものが多く、いかんせん本作は全体のストーリーがイマイチ。これでは、ちょっと・・・。

◆本作の原題は『52Hz, I love you』だし、邦題は『52Hzのラヴソング』。この「Hz」とは周波数のことだとわかるが、その意味は何?それは、私を含めほとんどの人がさっぱりわからないだろうが、チラシを読むと「5

2Hzとは、世界で一頭だけ実在するクジラが発する音の周波数。ほかのクジラとは周波数が違うため仲間とコミュニケーションがとれず、たったひとりで大海を彷徨っているという。」と解説されている。それを読んでもイマイチピンとこなかったが、本作を見れば、なるほど、なるほど・・・。

◆本作には多くの人物が登場するが、主役は若い男2人に若い女2人の計4人。日本でも今時の若い男は恋愛に不器用なヤツが多いが、それは台湾でも同じらしい。男の2人は2人ともギターは弾くものの、恋の方面における不器用さときたら・・・。しかして、『52Hzのラブソング』という邦題にも納得！もっとも、半分寝ながら見ても楽しめる本作が、いいのか悪いのか・・・。

2018（平成30）年3月7日記